

平成 26 年度

「運営に関する計画」
最終評価

平成 27 年 3 月 3 日 (火)

大阪市立豊新小学校

大阪市立豊新小学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校教育目標

- ◇豊かな心をもち、めあてをもって、意欲的に学ぶ子どもを育てる
- ・たくましい身体になる子ども
 - ・ゆたかな心をもつ子ども
 - ・よく考える子ども

1 学校運営の中期目標（平成 25 年度から平成 27 年度の 3 ヶ年）

現状と課題

児童は全般的に素直で明るく、元気よくあいさつができている。また、学習にもまじめに取り組んでおり、特に体験的な学習を好んでいる。また、学校行事、委員会活動やクラブ活動にも積極的に取り組めている。しかしながら、全国学力学習状況調査の結果では、国語 A ・ B 、算数 A ・ B 全てにおいて全国平均正答率を下回っており、また、一部児童に学習規律をきちんと守れないなど、問題行動も見られる。地域・保護者は学校の教育活動に好意的で、多大なる支援・協力を得ることができる。

そこで、基礎・基本的な知識や技能の確実な定着を目指し、反復学習や体験的な学習、協働的な学習を多く取り入れるなど、教科指導法の工夫が必要である。さらに、学校図書館や地域ボランティアを効果的に活用した読書活動の推進、国語科を中心とした全ての教科において言語活動を多く取り入れた授業の展開、児童が自己肯定感や自尊感情が高められるような取組の充実が課題と考える。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 学習理解度到達診断「しんだん」における正答率 6 割以上の児童の割合を、全学年で前年度割合より増加させる。(カリキュラム改革関連)
- 言語力や論理的思考能力の育成のため、重点教科で 6 年間を見通した言語活動の充実を図る実践的な指導計画を作成する。(カリキュラム改革関連)
- 英語教育の強化を図るため、年度ごとに順次指導学年を拡大する。(グローバル化改革関連)
- I C T を効果的に活用した授業の充実を図る。(グローバル化改革関連)
- 授業研究を伴う校内研修の充実を図る。(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 80% 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇・音楽鑑賞・古典伝統芸能）を実施する。(カリキュラム改革関連)

- 避難訓練（防災教育）を毎学期に実施し、また高学年においては安全（防犯）教育も実施する。（グローバル化改革関連）
- 教師力の向上に向けた研修ならびに研究の推進をする。（マネジメント改革関連）
- 産業界との連携と学習資源の有効活用をする。（学校サポート改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について、毎年、前年度と比べて3種目以上上回る。（カリキュラム改革関連）
- 学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 学校アンケートによる「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 学校アンケートによる「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 安全、安心、良好な教育環境の確保を図る。（マネジメント改革関連）

【視点 特別支援教育の充実】

- 障がいのある全ての子どもに対して「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、個別の指導計画に基づき指導します。（カリキュラム改革関連）
- 障がいのある子と通常学級の子どもの協働に成長する教育を推進する。（カリキュラム改革関連）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 学習理解度到達診断「しんだん」における正答率6割以上の児童の割合を、全学年で前年度割合より増加させる。(カリキュラム改革関連)
- 言語活動の充実を図る授業づくりに向けた基礎研究を行う。(カリキュラム改革関連)
- 英語教育の強化を図るため、4年での指導を実施する。(グローバル化改革関連)
- I C Tを効果的に活用した指導法の研究を行う。(グローバル化改革関連)
- 全教員が一人1回以上の授業研究を行い、内、3回は全体研修会を実施する。(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を70%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 心豊かな子どもの育成のため、音楽鑑賞行事を実施する。
- 避難訓練(防災教育)を毎学期に実施し、また高学年においては安全(防犯)教育も実施する。(グローバル化改革関連)
- 問題行動(生活指導)対応、いじめに関する研修を実施する。(マネジメント改革関連)
- ゲストティーチャーを招いての職業講話を高学年に実施する。(学校サポート改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の全国平均を大きく下回っている「20mシャトルラン」、「立ち幅跳び」及び「反復横跳び」の結果を昨年度平均より上回る。(カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を60%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートによる「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を75%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 毎月1回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期に改善を行う。(マネジメント改革関連)

【視点 特別支援教育の充実】

- 障がいのある全ての子どもの「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、個別の指導計画に基づき指導する。(カリキュラム改革関連)
- 障がいのある子と通常学級の子どもの交流および共同学習を推進する。(カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

【学力の向上】

- 「しんだん」の正答率を比較するにあたり、前年度のデータの蓄積がない学年もあり、全ての学年で正答率6割以上の児童数の割合を比較することは難しかったがデータがある学年で比較したところ、正答率6割以上の児童の割合は増加した。
来年度に向けて今年度のデータを整理すると共に、目標達成の指標を「問題の難易度」「児童の違い」などを考慮に入れ、昨年度の児童と比較するのではなく、大阪市小学校教育研究会が出る各教科の速報値と比較する等、指標の設定の検討が必要である。
- 「言語活動の充実」を図る授業づくりに向けた研修会や外部講師を招聘した研修会を持ち、低・中・高学年でそれぞれ1回ずつ授業研究会、研究討議会を持った。来年度も本年度の研究を生かし、引き続き言語活動の充実を図る授業づくりを行っていく。
- 外国語活動は当初予定していた4～6年生以外にも、3学期から3年生でも実施した。来年度も3年生以上で外国語活動を実施していく。
- 実技研修やモデル校での公開授業に参加し、校内でも講師を招いて実技研修を行った。来年度は、より多くの指導者が他校の実践の見学に行くことができるようとする。
- 全員が研究授業を1回以上実施し、相互見学や意見の交換を行い、指導法の工夫、指導力の向上につなげた。若手、中堅の教員が外部の研修会に参加し、校内で伝達して広めていくよう工夫する。

【道徳心・社会性の育成】

- 人権に関する指導を充実させ、学校アンケート（児童アンケート）で、「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目で、指標を上回った。
- 学校のきまりを守るよう、掲示物や日々の指導、集会等での確認を行い、ルールを守ることの大切さを指導してきた。学校アンケートでも、「きまりを守って学校生活を送っていますか」「あてはまる、どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合が、目標を上回った。
- 年間計画通り避難訓練を行い、緊急時の行動について確認することができた。また1月には、地域の防災リーダーと協力して、地震を想定した防災訓練を実施した。
- ゲストティーチャーを活用し、非行防止教室、キャリア教育を実施した。

【健康・体力の保持増進】

- 前年度課題であった敏捷性・持久力・跳躍力の力を伸ばすための取り組みを体育の授業を通して行った。それにより、「反復横跳び」「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」の結果が伸びた。また、なわとび週間やかけあし週間、スポーツ集会を実施することにより、スポーツに親しむ児童が増えた。
- 日々の給食指導で、各担任が量の調整や食べ方の指導をすることにより、昨年度より残食率が大幅に減った。

【特別支援教育の充実】

- 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を年度当初に見直し、学期ごとに達成状況を確認しながら、指導・支援を行った。また、全教員で研修会を実施し、支援が必要な児童の共通理解と支援方法の確認を行った。

(様式2)

大阪市立豊新小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなか

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習理解度到達診断「しんだん」における正答率6割以上の児童の割合を、全学年で前年度割合より増加させる。 (カリキュラム改革関連) ○言語活動の充実を図る授業づくりに向けた基礎研究を行う。 (カリキュラム改革関連) ○英語教育の強化を図るため、4年生での指導を実施する。 (グローバル化改革関連) ○ＩＣＴを効果的に活用した指導法の研究を行う。 (グローバル化改革関連) ○全教員が一人1回以上の授業研究を行い、内、3回は全体研修会を実施する。 (マネジメント改革関連) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 個に応じた学習指導】</p> <p>個別指導やグループ指導、繰り返し指導、習熟度別指導を計画し、基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 学習理解度到達診断「しんだん」における正答率6割以上の児童の割合を、全学年で前年度割合より増加させる。</p>	
<p>取組内容②【区分 言語活動の充実】</p> <p>2年継続した研究の1年目として、言語活動の充実を図る授業づくりに向けた基礎研究を行う。 (カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 年度末にまとめる1年間の研究の検証</p>	
<p>取組内容③【区分 外国語活動】</p> <p>英語教育の強化を図るため、4～6年生において年間指導計画に位置付ける。 (グローバル化改革関連)</p>	A
<p>指標 年間指導計画に基づいて外国語活動の授業を展開する。</p>	
<p>取組内容④【区分 ＩＣＴを活用した教育の推進】</p> <p>平成27年度に全市展開の大坂市スタンダードモデルに向けて、ＩＣＴの効果的な活用方法について指導方法の研究を行う。 (グローバル化改革関連)</p>	B
<p>指標 実技研修会やモデル校の公開授業に積極的に参加し、校内での伝達研修会を実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】</p> <p>実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。 (マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 全教員が一人1回以上の研究授業を行い、内、3回は全体研修会を行う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①今年度実施した「しんだん」結果（国語・算数）を集約して、次年度比較検討できるデータを整理するとともに、大阪市教育研究会からの正答率と比較するなどして、基礎的・基本的な学習内容の定着を検討した。正答率を「しんだん」の速報値（大阪市研究会）と比較すると、5年生の国語では上回ったが、その他では下回った。しかし、前年度の記録が残っている2年生の「しんだん」（国語・算数）では、正答率6割以上の児童の割合を増加させることができたので、目標は達成できた。
②月1度定期的に、言語活動の充実を図る授業づくりに向けた研修部会をもったり、講師を招聘して研修会を行ったりするなどして研鑽を積んだ。国語科を重点教科として、低・中・高学年で研究授業をおこない、指導法の共有を図ることができた。また、年度末には研究のまとめをして次年度につなげることができ、研究1年目のとして、目標を上回ることができた。
③4～6年生においては、外国語活動の授業を計画通り実施できた。さらに、3学期からは3年生においても外国語活動の授業を実施した。
④実技研修会やモデル校の授業に参加した。3学期には校内でICT研修会を実施することができた。
⑤計画した研究授業はすべて実施できた。さらに、研究授業をお互いに見学し合い指導法の工夫につなげることができた。
次年度への改善点
①「しんだん」の問題の難易度が異なったり、対象となる児童が異なったりするので、「指標」の正答率6割以上の児童の割合を次年度比較するよりも、「しんだん」の正答率を大阪市研究会の「しんだん」の速報値と比較する等の指標の検討が課題である。 ②今年度の研究のまとめをもとに、来年度の研究を発展させる。 ③4～6年生の外国語活動の授業の定着と、3年生の授業の継続。 ④ICT機器の操作の校内研修等をさらに充実していく。 ⑤計画的に研究授業及び研修会を実施していく。

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連) ○学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。 (カリキュラム改革関連) ○心豊かな子どもの育成のため、音楽鑑賞行事を実施する。(カリキュラム改革関連) ○避難訓練（防災教育）を毎学期に実施し、また高学年においては安全（防犯）教育も実施する。 (グローバル化改革関連) ○問題行動（生活指導）対応、いじめに関する研修を実施する。 (マネジメント改革関連) ○ゲストティーチャーを招いての職業講話を高学年に実施する。 (学校サポート改革関連) 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>道徳の授業の年間標準授業時間を確保するとともに、人権に関する指導内容の充実を図る。 (カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【区分 規範意識の育成】</p> <p>社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。 (カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【区分 道徳教育の推進】</p> <p>道徳の時間を年間指導計画通りに実施し、心豊かな子どもの育成を図る。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 年間計画に従い、音楽鑑賞行事を実施する。</p>	
<p>取組内容④【区分 防災教育の推進】</p> <p>災害についての正しい知識と的確な判断力を身につけ、非常時には正しい判断力を持って適切に行動できるように指導する。 (グローバル化改革関連)</p>	A
<p>指標 各種の想定に対応した避難訓練（防災訓練）を毎学期に実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【区分 防犯教育の推進】</p> <p>日常生活における犯罪被害の現状及び防止方法について理解を深め、自ら危険を回避し安全に行動するための安全教育を実施する。 (グローバル化改革関連)</p>	B
<p>指標 5・6年生において実施する。</p>	

<p>取組内容⑥【区分 問題行動への対応】 日頃より問題行動及びいじめを許さない集団の育成に取り組むとともに、事案発生時には、関係諸機関とも連携しながら早期解決に努める。</p> <p style="text-align: right;">(マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 問題行動（生活指導）対応、いじめに関する研修を実施する。</p>	
<p>取組内容⑦【区分 キャリア教育の推進】 児童の発達段階に合わせ、系統立てたキャリア教育を実施する。</p> <p style="text-align: right;">(学校サポート改革関連)</p>	A
<p>指標 ゲストティーチャーを招いての職業講話を高学年に実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は90%で、目標の80%を大きく上回ることができた。人権に関する指導の充実を図ることができた。</p> <p>②学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は95%で、目標の70%を大きく上回った。ルールを守ることの大切さを指導できた。</p> <p>③年間計画通り、音楽鑑賞会を実施した。児童の実態を把握しながら、道徳の授業を計画して実施することができた。</p> <p>④予定していた避難訓練をすべて実施することができた。特に、3学期の防災訓練は、地域の防災リーダーと連携するなどして、前年度以上の取り組みができ、児童の防災意識は高まつた。また、2・4年生では消防署を招き「防災教室」を実施した。</p> <p>⑤ゲストティーチャーを招き、非行防止教室と合わせて5・6年生において実施した。日常生活における犯罪被害の現状及び防止方法について理解を深めるとともに、自ら危険を回避し安全に行動するため知識を得ることができた。</p> <p>⑥問題行動（生活指導）対応、いじめに関する研修を実施して、問題行動およびいじめを許さない集団の育成に取り組むとともに、事案発生時には、関係諸機関とも連携しながら早期解決に努めることができた。</p> <p>⑦ゲストティーチャーを招いてのキャリア教育を、2月に6年生で実施することができた。取り組み後の児童の感想では、予想以上に興味・関心を示したものが多く、職業に関する意識を高めることができた。また、卒業遠足でキッザニアに行き、様々な職業体験をしている。</p>	
次年度への改善点	
<p>①人権に関する指導内容をより充実して、次年度以降も継続して取り組む。</p> <p>②次年度以降も継続して取り組む。</p> <p>③本校では、音楽鑑賞会と芸術鑑賞会を隔年ごとに実施しているので、次年度は、道徳教育の推進に適した芸術鑑賞会を計画する。</p> <p>④次年度も避難訓練（防災訓練）計画的に実施する。</p> <p>⑤次年度も非行防止教室を実施する。</p> <p>⑥次年度も、問題行動（生活指導）対応、いじめに関する研修を実施して、全教職員で、問題行動及びいじめを許さない集団の育成に取り組む。</p> <p>⑦次年度は、実施時期を考慮するとともに、多様な職業の講話を計画し実施する。</p>	

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の全国平均を大きく下回っている「20m シャトルラン」、「立ち幅跳び」及び「反復横跳び」の結果を昨年度平均より上回る。(カリキュラム改革関連) ○学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を 60%以上にする。(カリキュラム改革関連) ○学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を 85%以上にする。(カリキュラム改革関連) ○学校アンケートにおける「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を 75%以上にする。(カリキュラム改革関連) ○毎月 1 回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期に改善を行う。(マネジメント改革関連) 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 体力向上への支援】</p> <p>体育の授業において、敏捷性や持久力、跳躍力のアップを目指す取組をする。</p> <p>(カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「20m シャトルラン」、「立ち幅跳び」及び「反復横跳び」の結果を昨年度平均より上回る。</p>	
<p>取組内容②【区分 体育科授業の充実】</p> <p>運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら取り組めるような授業づくりを工夫する。</p> <p>(カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を 60%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>保健指導や手洗い・うがい強調週間等を通して、児童が手洗いの習慣を身につけられるよう指導する。</p> <p>(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標 学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>また、手洗い・うがい強調週間の個人記録カードの結果より、手洗い・うがいできた児童の割合を 80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【区分 食育】</p> <p>給食週間や栄養指導を通して、食への関心を高める指導を実施する。</p> <p>(カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 学校アンケートにおける「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を 75%以上にする。また、給食日誌における残食率の平均を 10%以下にする。</p>	
<p>取組内容⑤【区分 教育環境の整備】</p> <p>安全な学習環境の整備に向けて日頃より全教職員で取り組む。</p> <p>(マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 毎月 1 回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期に改善を行う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析						
①体育の授業などで敏捷性・持久力・跳躍力のアップを目指す取り組みをした結果「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」「反復横跳び」の結果に伸びが見られた。						
②「スポーツテスト」「なわとび週間」「かけあし週間」等、児童が自分の目標を持って取り組む全校行事を実施したり、児童会主催で「スポーツ集会」を実施したりして、主体的に運動できる行事を行うことができた。楽しみながら取り組める体育の授業づくりを工夫してきたので、学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は89%で、目標の60%を大きく上回った。						
③計画通り進められたが、かなり声掛けが必要であった。学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は91%で、目標の85%を上回った。						
④食への関心を持ち、給食を残さず食べることができた。学校アンケートにおける「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は96%で、目標の75%を大きく上回った。給食残食率も0.7%で、目標の10%を大きく下回った。						
⑤毎月1回安全点検日で、修理・補修の必要な個所の実態を早期に改善した。安全な学習環境の整備に向けて、全教職員で取り組むことができた。						
次年度への改善点						
①次年度比較できるよう、今年度の結果を引き継ぐ。						
②児童の興味関心が高まり、楽しみながら取り組めるよう、引き続き取り組みを進める。						
③児童が健康安全に対して、より高い意識が持てるよう、継続指導する。						
④児童が、自らの健康や成長に意識しながら、食に対する関心が持てるよう、継続して指導する。						
⑤次年度においても、毎月1回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期に改善を行う。						

手洗い強調週間（1月19日～1月23日） (%)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
給食前	100	100	97	97	100	98
トイレ後	99	96	69	94	95	94
そうじ後	93	96	66	93	95	86
運動・外遊び後	95	90	58	91	92	75
ハンカチ持参	97	92	89	87	95	78
運動・外遊び後（うがい）	93	81	56	87	69	61

給食残食率

平均%

	主菜	副菜	果物 デザート類	米飯	パン	牛乳	全体
4～10月	0.27	0.36	0.12	1.26	2.77	0.43	0.64
11～2月	0.10	0.13	0.93	1.45	4.50	1.95	0.99
年間	0.21	0.27	0.33	1.33	3.35	0.97	0.77

年度目標	達成状況
<p>【視点 特別支援教育の充実】</p> <p>○障がいのある全ての子どもの「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、個別の指導計画に基づき指導する。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○障がいのある子と通常学級の子どもの交流及び共同学習を推進する。(カリキュラム改革関連)</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、一人一人のニーズに応じて見直しを学期ごとに行う。</p>	B
<p>指標 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいた指導の実施</p>	
<p>取組内容② 【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>支援を必要とする子どもについて全教職員で共通理解を図る。</p>	B
<p>指標 特別支援教育に関する研修会を学期に1回実施する。</p>	
<p>取組内容③ 【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>教育活動全体を通じて、多様性を尊重する活動や実践を学期に1回行う。</p>	
<p>指標 学校アンケートにおける「自分には良いところがある」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を75%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の見直しを行い、それに基づいた指導を実施してきた。支援者が関わると、落ち着いて学習できる児童が増えている。</p> <p>②研修会を学期に1回行い、支援を必要とする子どもや、障がいについて、共通理解をすることができた。</p> <p>③人権教育への取り組みなどで、「自分には良いところがある。」と思う児童の割合が増えってきた。学校アンケートにおける「自分には良いところがある」の項目において、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合は80%で、目標の75%を上回った。</p>	
次年度への改善点	
<p>①教職員数を十分確保して、支援をさらに進めていく必要がある。</p> <p>②支援を必要とする子どもについて、日常的に情報交換して支援を継続していく。</p> <p>③自尊感情が高められる指導を継続していく。</p>	